

まちの話題



▶幼年の部特別賞を受賞した宮崎日胡さん



▶グランドチャンピオンに輝いた成富千鶴さん



▶全国大会を前に、関係者が出席して行われた岸川節歌碑除幕

北多久町岸川地区に伝わる民謡『岸川節』を11の各部門に分かれて競う全国大会が9月21日、中央公民館で開催され、約200人が出場しました。

岸川節は約50もの本歌があると言われ、400年ほど前に岸川地区の開墾に尽力した『万五郎さん』を称える仕事歌として親しまれています。

大会では、年齢、節、尺八や三味線といった伴奏で11の部門に分かれ、歌声、節回し、こぶしなどの基準で審査が行われ、自慢の『のど』を披露。

今回の大会では、大会20周年を記念して歴代チャンピオン、そして今大会総合優勝者が参加するグランドチャンピオン決定戦も行われ、第7回チャンピオン成富千鶴さん（北多久町）が見事優勝し、グランドチャンピオンに輝きました。

小学校低学年のころに祖母の練習についていき初めて岸川節に触れましたと話す成富さん。「素直に嬉しいです。練習の成果を発揮できました」と笑顔で振り返りました。

また全国大会を前に、中央公民館前に建立された『岸川節歌碑』の除幕式も行われ、佐賀竹聖会会員による岸川節の献歌で除幕を祝いました。

伝統の民謡を自慢の『のど』で披露!!

第20回 岸川節全国大会

まちおこしのきっかけとして、まずは多くの知らない“ひと”同士で仲良くなってもらおうと、大学生と多久を愛する20代の若者有志で、まちおこし交流イベント『多久飲み！2014』が多久駅南口の空き地で開催されました。

この取り組みは、昨年を引き続き2回目。発起人は佐賀大学3年生の岡島貴弘さん（北多久町筋原）で「誰でも参加できるイベントを通じて、まずは交流し、どんどん仲良くなることでまちおこしの基盤づくりにつながればと思います」とまちおこしへの思いを語りました。

当日は、佐賀大学の学生をはじめ、運営スタッフによる会場設営が行われ、岡島さんの乾杯でスタート。顔なじみとの再会や、初対面の人同士で和気あいあいと親睦を深めました。今回は、遠く東京都からの参加もあるなど県内外からおよそ150人が参加し、大いに盛り上がりました。

市内から家族で参加した加茂祐哉さんは「若い人が中心となって多久を盛り上げる取り組みで、大変頼もしく思います」と話しました。

多久飲み！2014



▶佐賀大学の留学生をはじめ県内外からの参加で開催された



▶老若男女が会場に集いざつくばらんに語り合う参加者

9/20 Sat.～9/23 Tue.

漬物で新たなチャレンジ!



9月20日から23日まで東多久町古賀一区の野菜直売所「新鮮組」で、漬物販売会が開催されました。この販売会は、花祭地区などの有志10人が集まり、昔からの漬物の味を残そうと「花まつり漬物部会」を結成（結成式は10月8日予定）。その広報と部員募集のイベントとして開催されました。

代表の中野民子さん（南多久町大野）は「匠の技を持った先輩方のなつかしい味を伝承し、地域のコミュニティの活性化にも役立てたいと考えています」と語りました。

9/6 Sat.

心安らぐ歌声に包まれる、癒しのひととき



中央公民館大ホールで「第28回多久市童謡の集い」が行われ、参加した『好齢大学院音楽科』、『たくジュニアコーラス』、『多久保育園児』、『コーラスいずみ』あわせて4グループの美しい歌声で、来場者を魅了しました。

『たくジュニアコーラス』は、7月に市内3校からメンバーを募集し、40人が参加。夏休み中に練習を重ね7曲を熱唱しました。

来場者からは「心が“ほっ”としました。心のコもった歌声に満足しました」と合唱を振り返り、「癒しのひととき」を堪能していました。